

ハイブリッド車(HV)基幹部品のリユースによるアジアへの電動車導入モデルの開発実証
事業実施団体：豊田通商株式会社

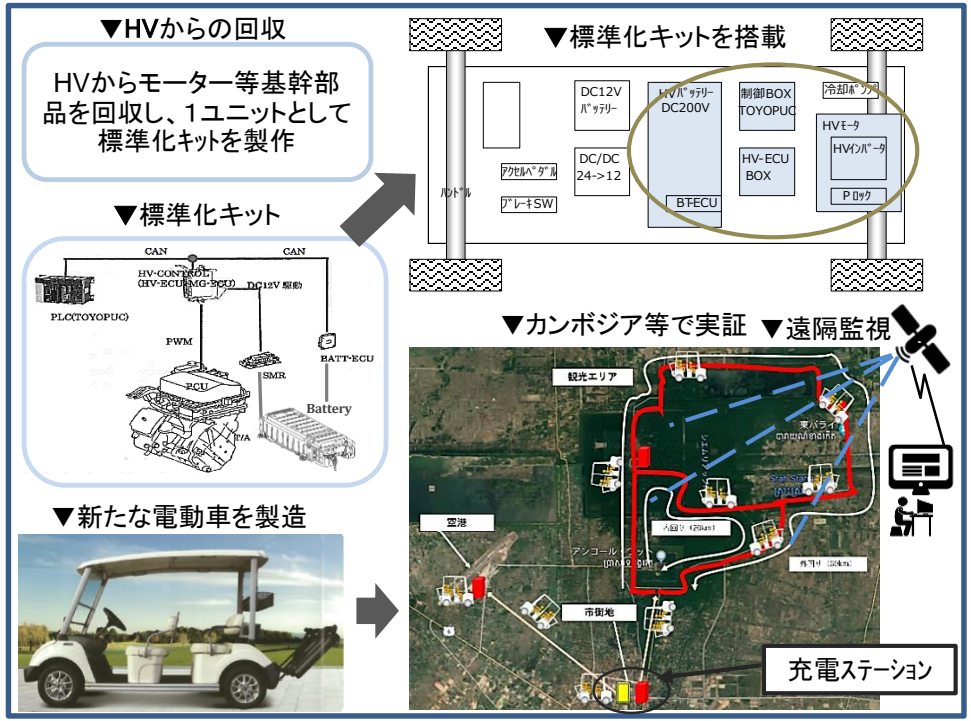
リノベーション・実証の概要

【実証事業の概要】

- ◆ カンボジアにてHV部品の回収システムを構築すべく、現地へ回収マニュアルを展開し技術指導、教育、研修を行う。
- ◆ 第2世代HV部品の回収実証後、対象を第3世代に拡大するための技術開発を行う。
- ◆ カンボジア、フィリピン、ラオス(各国)のニーズに合致した、HV基幹部品をリユースした電動車(以下、電動車とする)を設計、製作する。
- ◆ 各国で電動車の実証試験を行い、遠隔監視システムを構築して走行データを収集、分析する。
- ◆ 電動車の電池や充電方法の最適化を行う。

【検証項目】

- ◆ 回収から電動車製造まで現地で持続可能な技術レベル
- ◆ 車両の走行性能、各国交通環境への適合性の観点から、ドライバー、ユーザーの満足度
- ◆ 電動車を用いたタクシー(レンタカー)を導入する際の課題・問題の抽出とその対策の具体性



対象とする国・地域の概要



各国ともTukTukに代表されるガソリン車乗り合いタクシーが観光客や現地労働者の主な移動の手段となっているが、安全性、居住性、環境面、経済性全てにおいて課題があり、対策が望まれる。

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

- 事業化見込み**
STEP1: 電動車の社会実証を通じて、現地での受容性を確認し、電動車導入基本モデルを構築。(2019-20年、本実証)
STEP2: 電動車の製造サプライチェーン、運営含むビジネスモデルを構築。(2021年)
STEP3: 電動車の製販新会社を設立し事業開始。(2022年)
- 普及の見込み**
現行のガソリン車の20%を電動化させる事により本実証地において約2000台の電動車の普及を2025年までに行う。